

採種てん菜の倒伏防止に関する研究

1 支柱の効果ならびに人為的倒伏がてん菜の子実収量に与える影響

安部秀雄・山本保・川北暁司

移植栽培における採種てん菜は直根が切れ、根が浅くなるため、直播栽培により倒伏し易い傾向にある。したがって、てん菜の生育後期における人為的倒伏が子実収量にどのように影響するか、またその防止対策としての支柱、土寄、摘芯の効果を知るため、1965 年～1966 年に試験を行なった結果、つぎのような成績を得た。

1. 採種てん菜に対する倒伏の時期は 5 月 26 日頃の開花初期がてん菜の子実収量に対する影響は大きく、無倒伏の 30.8Kg に対し、約 5 割の 16.2Kg の収量にしか達しなかった。また、開花前、開花中期、開花後期の順に収量に与える影響は大であった。

2. 支柱した場合には倒伏は起らず減収は認められなかった。また土寄あるいは後期の摘芯は倒伏を防止するに到らなかったが、土寄は子実収量に対してやや好結果を得た。摘芯についてはさらに再検討を要する。